

2021 年 3 月 27 日

第 2 回「NISHITA 未来の学校」

資料集



2020 年 2 月 22 日に開催した第 1 回「NISHITA 未来の学校」の全体風景

杉並区立西田小学校
西田小学校学校運営協議会

第2回「NISHITA 未来の学校」スケジュール

- 13:30 開会のあいさつ・主旨説明
13:40 話題提供
1：吉田知弘様（JA 東京中央城西支店 杉並営業所）
2：児童
3：井下知紀教諭「2年生の取組」
14:25 ブレイクアウトルーム フリートーク＆全体の振り返り
14:40 全体会 質問、フリートークでの話題について
14:50 地域版 SDGs 構想（鈴木朝代校長）
15:00 閉会のあいさつ

本資料集の目次

1. 主催者から	
ユネスコスクール西田の歩み・・鈴木朝代校長	1
「NISHITA 未来の学校」とは ・諏訪哲郎（学校運営協議会会長）	2
持続可能な「未来への学び」を創る学校	
・・・・・成田喜一郎（自由学園副学園長）	4
2. 話題提供のレジュメ	
地域のJAより	5
「みんなにやさしい町づくり」	6
「しぜんとともにくらそう」	6
「世界を見直して環境について考えよう」	7
「わたしのまちはっけん」（実践報告）	9
3. 第1回「NISHITA 未来の学校」に対する感想	10
4. ESDに関する6年生アンケートの回答抜粋	
+ESD学びの「先輩」小学校6年生の「声」を聞く意味	12
5. 学校運営協議会とは	17



地域の方からのプレゼンテーション



「えんたくん」を囲んでのふりかえり

ユネスコスクール NISHITA の歩み

杉並区立西田小学校長 鈴木 朝代

オンラインではありますが、第2回「NISHITA 未来の学校」を開催できることとなりました。約6年間、本校がユネスコスクールとしてESDを推進してきた成果として、あるいは課題として、ホールスクールコミュニティで取り組むことが、とても大切であることが分かりました。そのためにも、大人も子供も考えよう「未来の学校」の開催は、今後の本校の教育活動には欠かせない取組です。ですから、規模は小さくともこの機会を無くしてはならないと、コロナ禍ではありますが、CS（学校運営協議会）委員の皆様と開催する決断をいたしました。ぜひ来年度は、昨年度のように多くの保護者、地域の皆様、教育関係者、関係諸機関の方々と子供たちが直接対面をし、語り合い、思いを巡らせる機会としたいと願っております。

ここで、ユネスコスクール (ASPnet: UNESCO Associated Schools Project Network) について、改めてご説明いたします。これは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念や目的を、学校のあらゆる面に位置付け、「児童生徒の心の中に平和の砦を築く」ことを目指す、ユネスコが認定する学校のことです。本校は、2014年の10月に、その認定を受けております。また、文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会は、ユネスコスクールをESD（持続可能な開発のための教育）の推進拠点として位置付けています。これを受け、本校は、ESDを教育方針の柱に据え、その実践や研究の成果を広く内外に発信するという重大な使命をもっているのです。

本校の子供たちは、1年間かけて、じっくりと自分のテーマについて追究し、ESD子供報告会において、その成果と課題を発信することを、毎年行っています。子供たちには、様々な課題に気付き、多面的に調べ、友達や関わっている大人たちと対話を重ね、自分なりの考えをもち、今できることを行動に移す力を日々身に付けてきました。今回、6年生に実施したアンケート結果からも分かるように、自分の身近な生活、日本や世界の現状について、正しく理解し、自分なりの問いをもち、多くの大人や国を動かす人々へ、強い思いを投げかけられる12歳に成長しました。これは、まさに、ユネスコスクールで6年間、主体的に学んできた成果と言えるでしょう。

今年度は、コロナ禍において行動に制限がかかる中で、授業以外の場面で、子供たちの自主的な活動が活発に行われました。自然発生的に『西田小をより良くするために』をテーマに、各委員会の子供たちが、それぞれが考えた取組を全校に呼び掛け、実施していく姿が見られました。それは、「気付き・考え・行動する子」という教育目標が達成されたリアルな姿であり、大変素晴らしい成果だと思っています。加えて、子供たちが主体的に活動できるよう、教員一人一人が、先に指示を出すのではなく支援者として子供たちに接することができたことが、今後のユネスコスクールにとってとても大きな収穫でした。

来年度は、全校児童一人一人に1台ずつのタブレットPCが貸与されます。この利点を生かし、子供たち一人一人の学びが、より広がっていくよう、我々教員も学習の中で有効活用していきます。そして、10年後、20年後の学校がどのようにになっているのか、何を大切にしていくべきなのか、ホールスクールコミュニティで共に考えていくたいと思い、「未来の学校」を開催いたします。今後とも、西田小学校の子供たちが、心豊かで、健全に成長できますよう、支え、見守っていただければ幸甚です。本日は、様々なお立場から、忌憚のないご意見、ご感想等をいただければと思います。

「NISHITA 未来の学校」とは

杉並区立西田小学校では、2016 年度から「ESD 子供報告会」を開催してきました。

小堂十前校長が着任され、ユネスコスクールに相応しい ESD についての年間を通した取り組みが始まりました。その成果を 2 月の土曜日の午前中に児童が中心となって発表するのが「ESD 子供報告会」です。「ESD 子供報告会」は、年々、発表内容もレベルアップし、児童主体の活動が鮮明になっていきました。そして、その際立った活動が高く評価され、2019 年秋には、ESD 大賞（主催：NPO 法人 日本持続発展教育（ESD）推進フォーラム）の小学校賞を受賞するに至りました。

（「その勢いに乗って」かどうか定かではありませんが、）西田小学校の学びの質をさらにレベルアップさせることはできないかという話が巻き起こり（多分、首謀者は新井雅晶前副校長）、学校運営協議会も協力することになって、2020 年の「ESD 子供報告会」の日の午後に開催されたのが、第 1 回「NISHITA 未来の学校」です。「NISHITA 未来の学校」の特色は以下の 3 点に集約できると思います。

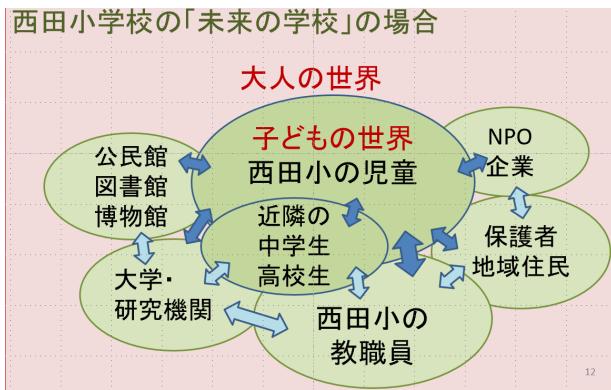
1. 児童も卒業生も教職員も地域の方々も同じ立場に立って、日ごろの活動の様子や成果を発表する。（ポスターセッション）
2. 児童も卒業生も教職員も地域の方々も年齢も立場も関係なく、発表に対して質問をしたり意見を交わしたりする。
3. ポスターセッション終了後には、様々な立場の参加者が 4~5 人のグループになって円卓を囲み、振り返る。（「えんたくんミーティング」）

つまり、「学校は教職員が児童を指導する場所」というこれまでの固定観念を打ち破り、「学校の内側の人も学校の外の人も共に学び合う場」という新しい空間が生まれることになりました。この構想のヒントは、実は、文部科学省が 2018 年 6 月に発表した「Society5.0 に向けた学校 er.3.0」というポンチ絵に描かれた未来の学校教育の姿（以下に該当部分のみ拡大）にあります。



[Society 5.0 に向けた学校 ver.3.0 \(mext.go.jp\)](http://mext.go.jp)

子どもたちをアクティブ・ラーナーにするために学校以外の多様な機関が関与するという、未来の「持続可能な開発モデル」の学校構想です。しかし、実は「NISHITA 未来の学校」では、「学び手」に矢印が一方的に集まるのではなく、下の図のように、児童から大人たちへの発信があるので、双方向性が存在しています。



この姿こそまさに「未来の学校」といえます。将来の学校は、子どもたちだけでなく、色々な大人が校内に入ってきて、さまざまな学び合いが展開される姿になるはずです。

第1回「NISHITA 未来の学校」では、全部で25件のポスター発表が行われました。その内訳は西田小の児童が11件、西田小の教職員が5件、その他保護者や地域の方々、卒業生、学校運営協議会のメンバーなどが9件です。いずれの発表も素晴らしい、またそこで繰り広げられた子供と大人が入り混じった質疑応答も活発で、来場者からも高く評価されています。本資料集の○頁にその一部を紹介しております。

この資料集を充実したものにするために、学校運営協議会メンバーの成田喜一郎先生が、この春卒業する6年生に西田小学校で学んだESDをどのように受け止めているのかを訊ねるアンケートを作成し、学校側の協力で3月の初めに実施することができました。この資料集ではその一部しか紹介できないのが残念ですが、子どもたちが大人に対して色々と質問したいことがあるのがよくわかります。

例えば、私たち大人は次のようなことを子どもたちから突きつけられています。

「なぜ大人たちは、もっと早くから環境問題に対して具体的な対策をすることができなかったのか？」

「なぜ環境破壊を何度もくりかえして、さらなるゆたかさを求めるのか？」

残念ながら、今年の第2回「NISHITA 未来の学校」は、コロナ禍のためにオンラインでの実施となり、発表件数も大幅に縮小せざるを得なくなりました。しかし他方で、オンラインを活用した新たな企画の可能性も見えてきました。例えば大学のゼミやNPOの研究会と教室をオンラインで繋ぐことによって、子どもたちが大人たちに投げかけたい疑問を提示し、回答を求めるることもできそうです。

「NISHITA 未来の学校」は、今後もさらに進化したことになりそうです。

(西田小学校学校運営協議会会長 諏訪哲郎)



持続可能な「未来への学び」を創る学校

いろいろな方々から、しばしば、「ESDとは何ですか?」「SDGsって、最近よく聞くけど?」「ユネスコスクールって、何それ?」って「問い合わせ」をいただきます。

便利な世の中、スマホでネット検索すると、結果が手に入ります。

「ESD」は、約 119,000,000 件(一部、先進医療の用語も含まれます)、「SDGs」は、約 79,700,000 件、「ユネスコスクール」は、約 3,040,000 件ヒットします。(google 検索 2021.3.19 現在)

ものすごい数ですね。その中から正しく分かり易になる情報を得るのはとっても大変です。

もちろん、それぞれ国連やユネスコ、わが国の文部科学省や外務省など公的機関のサイトを始め、NPO/NGO や企業などのサイトにも正しく分かり易になる情報はあります。

しかし、「ESD」「SDGs」「ユネスコスクール」という 3つのキーワードをめぐる「問い合わせ」が、なぜ? 何? どうしてつながるのか?

その「問い合わせ」に答えてくれるのは、「杉並区立西田小学校」です。

「杉並区立西田小学校」というキーワードをネット検索すると、約 25,000 件ヒットします。

トップ・ヒットするのは、「杉並区立西田小学校」の公式ホームページです。また、9 番目にヒットするのは、西田小学校学校支援本部「ニシタス」のブログです。

これらをご覧になると、「ESD」「SDGs」「ユネスコスクール」と言う 3つのキーワードをめぐる「問い合わせ」への答えが見えてきます。

しかし、それでも膨大なページが出てきますので、すべてを読み理解するも骨が折れます。

そこで、その「問い合わせ」に最も的確に答えてくれるのは、ここ西田小学校の子どもたちです。

ぜひ、本資料の p. 12~16 をご覧ください。特に 6 年間ユネスコスクール西田で ESD を学び、SDGs について考え、小さな行動を起こしてきた子どもたちの「声」をお聴きになってください。

ページをめくり、子どもたちの「声」にたどりつくまで、次の図 1 と図 2 を眺めながら、ユネスコスクール「西田小学校」の子どもたちが、地球や世界とつながり、地域と共に、どんな持続可能な「未来への学び」をしているのか、イメージを膨らませていってください。

そして、来たる 3 月 27 日(土)、「NISHITA 未来の学校」でお会いしましょう。

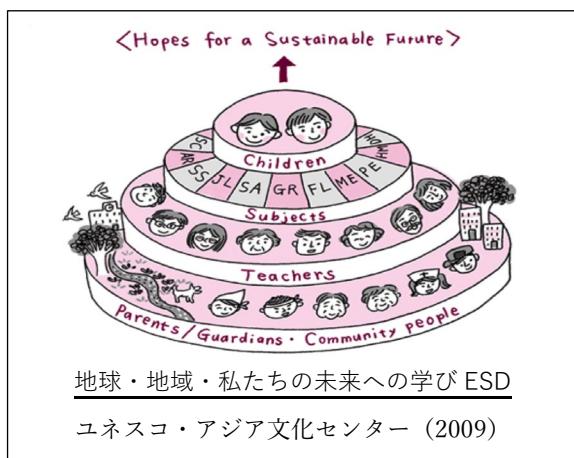


図 1



図 2

(西田小学校学校運営協議会職務代理／学校法人自由学園副学園長 成田喜一郎)

話題提供1：地域のJAより

JA 東京中央城西支店 杉並事業所 吉田 知弘《JA 東京

中央基本理念》

「農」をもとに組合員、地域の皆様とふれあいを深め、地域社会への貢献を目指しています。

今回鈴木校長先生からお話をいただき、基本理念に沿った活動であること、また西田小学校の皆様に杉並の農業について知っていただきたいと考え、話題提供させていただくことになりました。

我々JAは組合員農家の農業経営と生活を守り、よりよい地域社会を築くことを目的としてつくられた協同組合です。農業経営・技術指導や農産物を販売する施設の運営、貯金の受け入れや融資を行う信用事業、万一の場合に備える共済（保険）事業など様々な事業を展開しており、今日は我々の事業の農業について話題提供をさせていただきます。

○杉並の農業について

★杉並農業の特徴★

- 杉並の農家が作った野菜や花はどこで買うことができる？
- なぜ杉並産野菜はスーパーなどには出回っていないのか？
- 杉並の農業の特徴は？

★JAの地域社会への貢献について★

- 子ども食堂への食材提供
- 杉並農業の後継者対策

★農薬とSDGs★



児童話題提供者① 4年生「みんなにやさしい町づくり」

4年生は、みんなにやさしい町づくりというテーマで、福祉について学びました。多くの講師の方々からお話を聞き、町づくりについて様々な立場から考えました。学びのまとめとして作成した「夢の町」を中心に子供たちの思いを発表します。



夢の町大集合

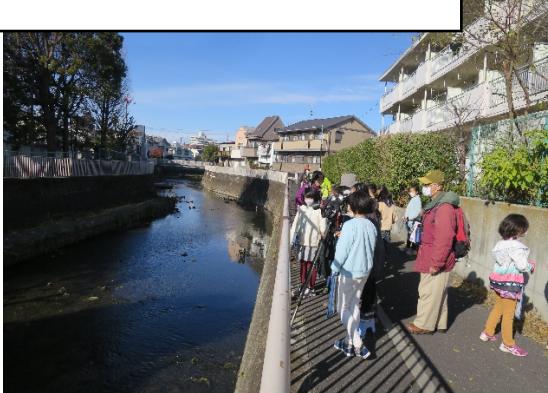


みんなにやさしい町になっているかな？

児童話題提供② 3年生「しぜんとともにくらそう」

3年生は、総合的な学習の時間に、「しぜんとともにくらそう」というテーマで、身近な生き物について学んできました。西田小の中や周りの自然について調べた「フィールドビンゴ」と「バードウォッチング」、たくさんの生き物に来てもらうための「すみかづくり」について発表します。

バードウォッチング



すみかづくり

児童話題提供者③ 5年生 「世界を見直して環境について考えよう」

5年生は、「世界を見直して環境について考えよう」というテーマで、地球環境問題について一人一人の児童がテーマを決め、課題の解決に取り組みました。今回は食品ロスに取り組んだグループから発表をします。食品ロスが様々な問題と関連していること、私たちの生活からたくさんの食品ロスが生み出されていること、また、実際に地域の商店等を調査して分かったことなどについて発表します。



食品ロス

～食品ロスについて見直そう～

5-1 橋田・宮崎



きっかけ

少しでも食品ロスを減らしたいと思ったから。
また、1日の食品ロスの量が、衝撃だったから。

自分たちの考え方

食品ロスを少しでも減らしたいと思う



なぜ食品ロスを減らさないと いけないの

主な理由

- ごみ問題
- 地球温暖化問題
- 食料問題



食品ロスの現状

西田小学校 1日あたり	杉並区内の 小学校1日 あたり	国内の1年 間あたり
20kg	750kg	612万t

項目	月日	年間	1ヶ月	1日
日本人 一人あたり		48kg	4kg	100g
東京都		51万t	4万 2500t	1397t
杉並区		2500t	208t	6.8t

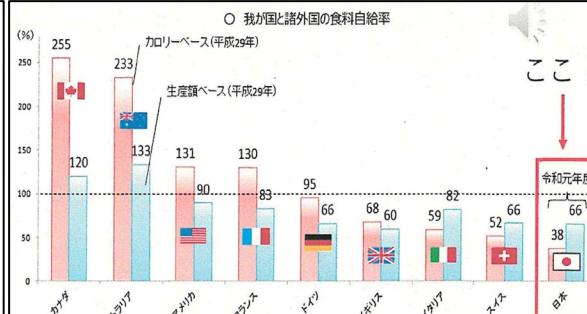
1年間の食品ロスは、約612万トン
→ 東京ドーム約5杯分



もったいない!!

- 年間2550万tの食品が捨てられている。
- 『食品ロス』は612万tある。

○ 我が国と諸外国の食料自給率 (%)



国	カロリーベース(平成29年)	生産額ベース(平成29年)
カナダ	255	120
オーストラリア	233	133
アメリカ	131	90
フランス	130	83
ドイツ	95	66
イギリス	68	60
イタリア	59	82
スペイン	52	66
日本	38	66

※ 令和元年度

 <h3>Zermattの結果</h3> <p>1日の食品ロスの量：<u>0kg!?</u></p> <p>【食品ロスを<u>0kg</u>にする工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 閉店前にパンを<u>安売り</u> 余ったパンは店員さんが<u>持ち帰り、食べる</u>など 	 <h3>Family MartとLAWSONの結果</h3> <table border="1"> <tr> <td>Family Mart</td> <td>1日の食品ロスの量：<u>2万円弱!?</u></td> </tr> <tr> <td>LAWSON</td> <td>1日の食品ロスの量：<u>1万円!?</u></td> </tr> </table> <p>【店員さんがいつも思っていること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>もったいない!!</u> 下げるときに怒られると、<u>しょんぼり…</u>など 	Family Mart	1日の食品ロスの量： <u>2万円弱!?</u>	LAWSON	1日の食品ロスの量： <u>1万円!?</u>
Family Mart	1日の食品ロスの量： <u>2万円弱!?</u>				
LAWSON	1日の食品ロスの量： <u>1万円!?</u>				

 <p>根拠</p> <p>世界では、まだ食べられる食料が 13億トン/年 廃棄している</p> <p>そのうち日本では、約612万トン 廃棄している</p> <p>1杯/日 毎日お茶碗1杯分の食料を捨ててしまうことになります</p> <p>その1杯が、食べられるのではないかな！？</p>	<h3>食品ロスに関するSDGs番号</h3> <p>12 つくる責任つかう責任</p> <p>細かく分けたらもっとあるよ！</p>
--	---

<h3>食品ロスを減らす方法</h3> <p>よろしくお願いします</p> <ul style="list-style-type: none"> 食べられるだけの食品を買う 好き嫌いをしない 買い物に行く前に冷蔵庫の中を確認するなど <p>エコパックを持っていこう！</p> <p>まだまだ色々あるよ！</p> <p>X</p>	 <h3>結論</h3> <p>食品ロスは、ちょっとの工夫で、減らせることが分かった。 自分たちがお茶碗一杯分、食べたらもっと減らせると思う。</p> <p>蝶</p>
---	--

<h3>自分たちの考え方</h3> <p>食品ロスを少しでも減らしたいと思う</p> <p>出典</p>	<p>皆さんに一言</p> <p>eco</p> <p>少しでも食品ロスについて行動しませんか？</p> <p>地球のイラスト</p>
--	---

ご清聴
ありがとうございました

出典

・農林水産省
・SHOWA
・SDGs START BOOK
・にごむつから診える世界
・Zermatt
・Family Mart
・LAWSON

おいしい残さず食べよう！

完食を目指そう！

2年生 生活科 実践報告

「わたしのまちはつけん」

2年担任 井下 知紀

学習のテーマ

町のすてきな人・もの・ことを
見つけ、みんなに教えてあげよう

テーマ
設定

目指す子どもの姿

住んでいる地域のよさに
気づき、地域への親しみや
愛着を深めることができる

テーマ
設定

インタビュー協力

(五十音順 敬称略)

- | | | |
|------------|---------|--------------|
| ・大田黒公園 | ・笹や | ・辻安全食品 |
| ・狹窪児童館 | ・松溪中学校 | ・TOUMA |
| ・狹窪二郵便局 | ・武井さんの畑 | ・成田西ふれあい農業公園 |
| ・角川庭園 | ・田端神社 | ・肉のオオクラ |
| ・川上豆腐店 | ・玉川 | ・日本ドライクリーニング |
| ・喜久知屋製菓 | ・中道寺 | ・米川動物病院 |
| ・早乙女米店 | ・ツエルマット | ・緑化園 |
| ・サーチケット理容店 | | |

町たんけん



成果

- ・地域のよさに気づき、
地域への親しみ・愛着を
深めることができた
- ・上の学年で
ESDを学んでいくための
素地を養うことができた

成果と課題

課題

- ・新型コロナウイルスのため
子どもの選択・活動に制限

成果と課題

第1回「NISHITA 未来の学校」に対する感想

「えんたくんミーティング」のあとに、折り紙に書いてもらった感想の一部

<児童>

- 地域との関わりは大切だと思うし、僕たち主役が様々なことをしなくてはいけない。
- 先生と、「先生と生徒」ではない立場で話し合いをするのは楽しかった。
- 自分が教える側になって学習するのも授業として楽しいと思った。質問に答えたりするのは大変だったけれど楽しかった。
- 今回の「未来の学校」を通して、大人の人たちの発表を見てみると、私たちの発表より詳しく書かれていたり、時間が長かったりと、違うところがあった。
- 自分たちが取り組んでいることを地域の人が知り、行動してくれるのはとても嬉しいと思った。

<教職員>

- 持続可能な西田にするためには、子供が主役で地域との関わりを作っていくことが大切だ。子供たちにどんな目的意識や課題意識をもたせるかを考えていかなければならない。
- 子供と同じ話題で議論する楽しき、新鮮さ。他と交流することで自分の見解が広がった。実際に交流し体験することで、非常に楽しい時間を過ごせた。
- 一人一人が伝えたいことを大勢の前で発表する姿は、年齢にかかわらず皆キラキラしていた。伝えたいことを探すこと、認めること、調べて伝えることの大切さを感じた。

<地域関係者>

- 学校と子供を中心に地域のコミュニティがまとまり活性化することが、持続可能な社会につながると感じた。
- 報告会で子供たちが生き生きして報告していた。やはり、教員は子供たちに任せ、子供たちはやる気をもち、自由にのびのびと学習に取り組むのが大事だと思った。
- 大人の私も子供たちの成長に刺激を受け、日々学んでいるのだなと思った。子供だけでなく、大人も学び続けたい！
- 西田の町が地域の方にとても愛されているのだと知った。西田小の取組が地域に影響を及ぼしているのではと感じられた。

<保護者>

- 大人の発表から感じたことを、きちんと発信できて、またまたびっくり…！これからどんどん多くのことを吸収して成長していきますね！楽しめます。

当日の参加者・発表者から寄せられた感想の一部

- 子供も大人も学び合い、地域・社会を次の世代につないでいくきっかけとなる素晴らしい取組だったと思います。今年度初ということで、会の位置づけや、この取組から派生する「未来の学校」展開イメージなどは、さらに学校運営協議会等で話し合い、次年度に向けて地域や保護者に共感の輪を広げていかれることがあります。(教育委員会学校支援課関係者)
- すごいです！今までに出会った学校の実践の中で最高でした！子供も教師も保護者も地域も、それに関わる関係者も、一参加者も、みんながフラットな関係でその場を共有できるのです。ここ的孩子たちは本気で出来ることを考えて実践しています。飼育しているミニズ、自分で集めた海洋プラスティックの入った瓶、レジンペレットの実物、飛行機で使われている木製のナイフフォークのセットなど。これを授業の一貫として行われた発表会とは別の、本当に任意のポスターセッションのために、1人で準備しちゃうものすごさ。他にもたくさんのがすごい子供たちが発表していたし、職員や地域の人やOBなどの発表もそれぞれ面白い。栄養士さんが、賞味期限間近の備蓄食を給食で活用して食品ロス対策につなげたという報告にも震えました(だってフツーの学校では、許可してくれないから…責任問題を怖がる人たちが)。ホールスクールアプローチってこういうことなのだなと思える、素晴らしいモデルに出会いました。すごいエネルギーと希望をもらったなー。本当に未来の学校です。(他校のSDGs実践教員)
- 私自身、とても勉強になり、本当に参加してよかったです。現在中1になる長女が、「去年もあつたら在校生として発表したかったな～」なんて言っていました。子どもたちの発表も一生懸命で素晴らしいかったです。子どもたちだけじゃなくて、大人にも学びを！というのは素敵なことです。私も日々、子育ての中で新しい発見や学びに気づかれており、興味のアンテナが増えたように思います。(発表者)
- 色々な背景をもつ人が、児童のためにという気持ちで学校の行事へ、教育的視点をもって関わることで、児童たちの見識や経験がより深まるきっかけが生まれ、関わった人たちも『関わって良かった』と思える、良い循環が起こるのかも知れない、と思った。(発表者)

主催者側の新井雅晶副校長(当時)の総括(抜粋)

「NISHITA 未来の学校」は地域に「SDGs の学び」の輪を広げるねらいがあり、子供にも自分の実践を発信する機会を創ろうと考えたが、多種多様な人材が「SDGs の学び」を視点として集う「学びの共同体」となったことで、「NISHITA 未来の学校」には、子供も大人も対等な立場で、学び合う「公共空間」としての役割が見えてきた。

「未来」は誰のものかと考えたとき、未来を担うのは子供たちである。子供たちが「参画者」の一人であるという認識で「SDGs の学び」が構成されるのは当然のことかもしれない。我々大人たちは、子供に対して「育てる者」「教える者」という発想があるが、場合によつては、その発想も崩して、新たな価値観の下、「未来の学校」の在り方を考えていなければならぬかもしれない。

「ESD」についての 6 年生アンケートの回答抜粋

学校運営協議会の成田喜一郎先生から、西田小学校をこの春卒業していく子どもたちが、これまで学んできた ESD をどのように捉えているかを確認するアンケートを実施してはどうかとの提案があり、学校側も同意され、3 月の第 1 週に実施していただきました。

その結果、大部分の児童が ESD の意義をしっかりと理解し、この社会をよりよいものにするために何が求められているのかをきっちりと認識していることが明らかになりました。西田小学校の先生方が、これまで取り組んでこられたご指導が、的確なものであったことの証と感じました。とりわけ Q2 の回答からは、ESD で重視されている critical thinking を正しく身につけ始めていることも伺えました。

以下、ごくごく一部ですが、紹介いたします。

Q1: 「ESD」という言葉を見たり聞いたりして、ふと思い浮かべる(連想する)ことやものは何ですか？ 1つだけあげてその理由や訳を大人たちに教えてあげてください。その1つがみつからない人は、「？」を書いて、その理由を教えてください。

- ・ SDGs です。(中略) 17 個の目標を達成するために、大人でも子供でも行動していかなければならないのです。
- ・ SDGs から視野を広げて考えるということだと思います。SDGs には社会のいろいろな問題があり、それを総合の時間でやるとき、どんなことにつながるのかをみんなで考えるからです。
- ・ ESD と言えば、環境に優しく平和に努めるという未来的とか持続可能という意味だと感じる。また子供たちが未来に向けて挑戦するというイメージもある。
- ・ 「ESD 子供報告会」です。なぜなら、今まで毎年おこなっていて親しみがあったからです。
- ・ 環境問題や難民、きがなどのたくさんの問題です。5, 6 年といろいろな問題について学んできて、一人一人が意識すればなんておもってきたけど、それができないと分かって、解決策を考えることが必要だから。
- ・ 世界全体を捉えた問題。ESD で印象深いのは 5 年の時と 6 年の時で、それらの共通している点は、世界全体に視野を広げて、何かしらの問題に対して取り組んでいるという点が挙げられるから。
- ・ 1 年間かけて持続可能な社会や平和について学びましたが、私の中で ESD といえば ESD 子供報告会というイメージが強いので、ESD から「伝える」「発信する」ということを思い浮かべます。
- ・ 「平和」を思い浮かべる。ESD はいろいろな問題が世界にある中で、それぞれについて自分にできることが何かを考えること。
- ・ ESD : ESD は、SDGs の解決に向けて動く、というので、連想するのは SDGs です。
- ・ 持続可能な社会の実現に向けて、環境や世界の問題(例: 難民問題)などを少しでも早く解決できるようにする取り組み。
- ・ 「地球温暖化」: 今、私たちにとって一番身近で、解決しなければならない問題だから。
- ・ 平和: なぜならすべての問題が平和につながるから。

Q2:これまで「ESD」を学んできて、新たに浮かんできた「問い合わせ」(はてなと思うこと)を大人たちに問い合わせてみてください。(幾つあげてもいいです)

- ・「ESD」に取り組んできて、環境省は一体何をしているんだろうと思いました。ぼくたちはいろいろ取り組みをしている中で大人は何をしているのか疑問に思いました。
- ・はたして今まで SDGs が 2030 年までに達成できるのか？もう 2030 年まで 10 年もないというのに、まだまだジェンダーや肌の色などで差別、また難民も多々いる。しかし、SDGs のために行動する人が少ないと感じる。
- ・まだ働いている大人が環境問題などについて「これは君たちの世代の問題だよ」と子供に言っているのを見たことがあります。確かに今の子どもの世代が大人になるときの話だけれど丸投げするのはどうかと思ったのですが、大人の方はどう考えますか？
- ・他の国の戦争や紛争を止めるために、どんなことをしているのですか？
- ・海洋プラスチック問題で、プラスチック（の使用）を廃止しても、海に残ったプラスチックをどうするのか、どうしたのかを知りたい。
- ・原発についてどう思うか、賛成？反対？ アメリカ軍基地が多く日本にあることに賛成？反対？あと、これは分かったところで何にもならないが、多くの人に問い合わせたいこと。それは「SDGs の達成、あと 9 年で間に合いますか？」
- ・世界はこのまま悪い方向に向かってしまうのか、それとも平和になり、何も問題がなくなるのか？
- ・過去何十年とこの学校を卒業していった人がいる中で、実際に ESD に対して行動を起こした人はいるのか？子供たちがこのように考えている中で、会社や企業で働く人たちは何を考えているのか？（抽象的ですが）
- ・理解し発信するまではいいが、その問題の解決策が募金などだった場合、本当に自分たちの募金が役に立っているのかくわしく知りたい。
- ・発展途上国での教育問題解決は、校舎設立や教師派遣が関わってくると思います。校舎設立は、募金活動などの支援を受けられればできると考えられますが、教師派遣は人手不足のうえ、代償が難しいため、達成しにくいと思います。どうすれば発展途上国への教師派遣が実現できると思いますか？
- ・何か解決策を考えるときに、いつも同じような答えにたどりついてしまいますが、どうすればよいと思しますか？
- ・今の社会（世界）を平和だと思いますか？ また、その理由も教えてください。今の世界の問題を解決するために自分が何か行動しようと思っていますか？
- ・なぜ世界の政府は民衆の意見を聞かないのだろう。
- ・SDGs の解決に向けて自分たちにできることは何ですか？私たちはいくら調べたり考えたりしても、募金や寄付、ボランティア活動ぐらいしか挙がりませんでした。
- ・平和が一番良いと分かっているはずなのに、なぜ国によって考え方、行動が違っているのか？
- ・もっと世界の人々と関わっていかなければならぬのに、「ESD」のことを知らない人がいる
- ・これまでのキャンペーンをおこなって、はたして効果があったのだろうか。
- ・小学生の私たちが大人に訴えかけて、大人たちは本当にその問題の優先順位を上げているのか？
- ・自分たちの発表で、何か考え方か変わったり実践したりした人はどれくらいいるのか。
- ・人間がいる限り環境問題はなくならないのでは？

Q3:これから「ESD」を学んでゆく後輩たちや「ESD」を知らない人たちに、アドバイスをするとしたら、どんなアドバイスをしますか？(学び方や暮らし方など注意するといいことなど)

- ・はじめは大きなことからより小さなこと、身近なことから始めた方がよいと思います。大きなことからだと何もできないからです。
- ・とにかくいろんなことに関心をもつことです。他の国のことでも、自分の国でのことのように思えば、自然と解決したいと思えることができます。
- ・ただ、難民や食料問題の現状を知るだけでなく、その人達のためにぼく達に何ができるのかを考え、実際に行動し、平和な社会の実現のために少しでも近づけられるようにしていくことが必要だと思う。
- ・ずっと調べてないで、どんな小さな行動でもやることが大切。また、その小さな行動を続けることも大切。
- ・ESDは総合だけではなく、他の教科（国語、算数、理科、社会など）が関わっていて、色々な方面で物事を考えてほしいと後輩にアドバイスしたいです。
- ・後輩へ、子供だからといって大人に対してガツガツ言つていいんです。小学生だからといって自分お考えを終わらせなくていいんです。子供報告会はゴールではなく広める場です。だからその後も続けることに意味があります。
- ・自分がやりたいことや興味・課題をもち行動することが大切だと思う。持続可能な社会にするために、一人一人が行動することが大切。で楽しみながらやることが大切です。
- ・始めに課題をみつけるときに「なんとなくこれ」というわけでなく、きちんとした理由をもって決めることが大切。
- ・なるべくインターネットより本のほうがたやすい。インターネットでしらべるなら、団体の公式ホームページにする。
- ・学び方として、私を含めた大体の人が、まず最初にその問題について理解を深めることが大切だと考える。確かにそれも大切なことになるが、私だったらその問題がどんなに深刻でも知ったこっちゃない、と思う。その問題を解決するために、みんなに何を求めているかを考えて、みんなの心に響くような発信の仕方ができたらいいなと思う！
- ・ESDの話を聞いたら、友達や親に話すとよい。
- ・ESDは日本や世界をとても良くするために作られたもので、それは私たちががんばって解決すべき問題にとても関連するもので、様々な事を知れるので、ぜひたくさんESDに触れてみてくださいね。
- ・ESDでは昔のことを調べてから今のことを調べるといいと思いました。また、規模を大きくして考えると問題が見えてくると思いました。
- ・「ESD」は、世界で信じられている考え方にはらわれず、自分の考えを見い出して学ぶといいです。
- ・自分の近くにあるものから、環境やSDGsに関係することを見つけ、そこから世界規模で考えて、自分がどんなことをすればいいかを頭に入れておきながら行動すればいいと思う。
- ・個人でやるよりグループでやると、アイディアも出やすいし、いろんなことを実行できるけど、間違った方向に行きやすいので気をつける。
- ・日本のことだけでなく世界のことも考えてほしい。
- ・ESDでは、自分で考えを深めて、それをみんなに知つてもらうようにするには、まずは自分がその内容について一番知ることが大事だと思った。

ESD学びの「先輩」小学校6年生の「声」を聴く意味

6年間ユネスコスクール西田小学校でESDを学び、SDGsについて考え、小さくとも行動を起こしてきた子どもたちの「声」に耳を傾けてみたいと思います。

下級生たちはもちろん、わたくしたちおとなもその「先輩」たちの「声」に耳傾けたとき、ESDとは何か、SDGsのめざすものは何か、より具体的に学ぶことができるのではないでどうか。

0 3つの質問にどんな意味が潜んでいたのでしょうか

Q1: 「ESD」という言葉を見たり聞いたりして、ふと思いつかべる(連想する)ことやものは何ですか? 1つだけあげてその理由や訳を大人たちに教えてあげてください。その1つかがみつからない人は、「?」を書いて、その理由を教えてください。

【子どもたちの心の深層に染み渡っていった ESD の学びを他者に説明するという場面を設定し、引き出すことはできるか、6年間の ESD 学びの到達点が見えてくるのではないか】

Q2:これまで「ESD」を学んできて、新たに浮かんできた「問い合わせ」(はてなと思うこと)を大人たちに問い合わせてみてください。(幾つあげてもいいです)

【6年間にわたって多様な ESD の学びを経て、わかったことやできたことだけではなく、この先も学び続けていくための「問い合わせ」は何か、おとなという他者に向かって問い合わせることで明らかにできないか、誰も正解を持たず、永続的な理解と思考をもたらす本質的で根源的な問い合わせを共有できるのではないか】

Q3:これから「ESD」を学んでゆく後輩たちや「ESD」を知らない人たちに、アドバイスをするとしたら、どんなアドバイスをしますか? (学び方や暮らし方など注意するといいことなど)

【自分だけではなく、学年や世代を超えて共に ESD の学びを継承したり、共有したりできることは何か、経験知や実践知を有する「先輩」から ESD の学び方や ESD につながる暮らし方を具体的に示唆されるのではないか】

1 6年生が3つの質問に答えるために用いたひとやもの、ことに関わる ESD の概念(言葉)のすべてを、AIさん(人工知能)の助けを借りて分析をするとどうなるのでしょうか

学びの対象となる多様な「世界」の「平和」や「社会」の「問題」について、「知る」「思う」「考える」などを通じて、「大人」も「子ども」も「解決」に向けた「行動」が「できる」ひとつになることをめざすのが、「ESD」「SDGs」であると認識されたと言ってもよいでしょう。



図 6年生が書いた言葉の頻度数分析

2 6年間の学びを経て、6年生たちは、果たしてこれからも問い合わせ続けていきたい問い合わせ、永続的な理解や思考をもたらす問い合わせに気づいたのでしょうか。そして、おとなたちからの応答と対話を求めているのではないのでしょうか

- ・今の社会(世界)を平和だと思いますか？ 【平和とは何か、戦争がなければ平和なのか】
- ・SDGs の解決に向けて自分たちにできることは何ですか？ 【今ここからできることは何か】
- ・なぜ世界の政府は民衆の意見を聞かないのだろう？

【政府と民衆とはどんな関係になるといいのか】

・はたして今まで SDGs が 2030 年までに達成できるのか？ SDGs の達成、あと 9 年で間に合いますか？しかし、SDGs のため行動する人が少ないと感じる。

【どうしたらよいのか、おとなも子どもも考えていく必要はないのか】

- ・人間がいる限り環境問題はなくならないのでは？ 【果たして人間は環境の破壊者なのか】
- ・これまでのキャンペーンをおこなって、はたして効果があったのだろうか？

【効果の検証はどうするのか】

・発展途上国での教育問題解決は、校舎設立や教師派遣が関わってくると思います。どうすれば発展途上国への教師派遣が実現できると思いますか？

【教育格差をなくすにはどうすればいいのか、教師の存在に左右されることはないか】

具体的な持続可能な目標や課題を元に「ESD」を学んできた西田の 6 年生は、おとなも顔負け、持続可能か不可能かと言う分岐点にたち、選択肢を増やす積極的な思考 (Critical thinking) が身につきはじめています。この ESD の学びとしての「問い合わせ」を中学校に行っても抱え愛し、その答えを探し求めていって欲しいですね。そのとき、おとなたちに何ができるのでしょうか。

3 6年生が「後輩」たちにアドバイスする ESD に向かう学び方や暮らし方とは何でしょうか

- ・小学生だからといって自分の考えを終わらせなくていいんです。 【永続的な理解と思考】
- ・日本のことだけでなく世界のことも考えてほしい。【地球規模で考え、ここ西田から行動へ】
- ・ESD の話を聞いたら、友達や親に話すとよい。 【伝えたり問い合わせたりすること】
- ・持続可能な社会にするために、一人一人が行動することが大切。【今、自分にできること】
- ・ずっと調べてないで、どんな小さな行動でもやることが大切。 【調べ学習を超えて】
- ・また、規模を大きくして考えると問題が見えてくると思いました。 【視野を広げ鳥の目で】
- ・大きなことからだと何もできないからです。 【遠く大きなことと今こことのつながりを】
- ・後輩へ、子供だからといって大人に対してガツガツ言つていいんです。 【どんどん発信を】
- ・自分がやりたいことや興味・課題をもち行動することが大切だと思う。【なぜ何どうして？】
- ・また、その小さな行動を続けることも大切。 【目の前のことと全体につながり続けること】

ESD は、先生やおとなたちが教える人、子どもたちは教えられ学ぶ人という関係性を超えて、先生やおとなたちが子どもたちから教えられ、学び気づくことが多々あります。

本協議会会長の諏訪哲郎さんが、しばしばおっしゃる、何かを「変革」させる／させられる「他動詞」的な学びではなく、ESD は子どもたちも先生やおとなたちも共に、自らが「変容」する／する「自動詞」的な学びがとても大切になります。

その意味でも、ESD の学びは、子どもも先生やおとなも世代を超えてつながり、持続可能な未来に向かう、持続・継承的な学びを学校だけではなく、家庭や地域などで創っていく学びだと言えるのではないのでしょうか。

(成田喜一郎)

学校運営協議会とは？

保護者や地域住民などが教育委員会、校長と責任を分かち合いながら、当事者として学校運営に参画するための仕組みが学校運営協議会です。今、「地域に開かれた学校」からさらに前進した「地域とともにある学校」が求められるようになっています。学校運営協議会は、「地域とともにある学校」を実現するための仕組みともいえます。

学校運営協議会は学校運営の基本方針を承認することや、学校運営や教育活動に対して意見を述べることができます。この仕組みにより学校運営や教育活動に家庭・地域の意向が的確に反映され、児童にとってより良い教育環境を作っていくことが出来ます。また、それぞれの学校の特色を持続可能なものにすることにも役立ちます。学校運営協議会の委員は校長および地域住民や保護者と学識経験者などから構成されています。

学校運営協議会を設けている学校のことを地域運営学校（コミュニティ・スクール、略して CS）といいます。

